

診療所実習を通して

あかりこどもクリニック 1年 HS

今回、壬生町にあるあかりこどもクリニックで診療所実習をさせていただいた。同院では、小児科、アレルギー科、予防接種を中心に地域の子育てを支える役割を担っており、「あかり」という名の通り、地域に暮らす子供と保護者をあたたかく見守る存在である。今回の実習を通して、診療所が地域医療に果たす役割や、患者さんや家族への寄り添い方について多くの学びを得ることができた。

午前中は、院長先生の診察を見学した。来院される患者さんの多くは、アレルギー(特に卵アレルギー)や、皮膚のトラブルを抱えていた。診察の際に印象的だったのは、院長先生が診察の終わり際に必ず「他に気になることはありますか？」などと声をかけていたことである。こうした一言により、保護者が抱える些細な疑問や不安を相談しやすくなり、診療室の空気が和らいでいた。実際、その声掛けをきっかけに追加で質問される保護者の方が多かった。このような配慮が患者や家族の安心感につながり、信頼関係を築く上で大切であると学んだ。

また、先生は病状の説明の際に必ず絵を描いて視覚的に伝えていた。専門的な医学用語だけでは理解が難しい内容も、図や絵を用いることでわかりやすくなり、保護者が納得して治療に協力できる環境が整うと感じた。小児科においては子ども本人だけでなく保護者の理解と協力が重要であり、そのための工夫を惜しまない姿勢が印象的であった。

さらに診療中、看護師の方々が頻りに診療室に出入りし、時には診療の最中でも質問をする場面が見られた。これはあかりこどもクリニックの特徴の一つであり、報告、連絡、相談を重視して、いつでも質問できる雰囲気が作られているという。お互いに声をかけやすい環境を保つことで、医療ミスを防ぎ、チーム全体でより安全な医療を提供することができるのだと理解した。また、スタッフ同士がサポートし合う雰囲気も感じられ、医療従事者間のコミュニケーションの大切さを改めて学ぶことができた。

院内の環境づくりについても印象深かった。授乳室には、座り心地の良い大きな椅子が置かれており、保護者が安心して利用できる環境が整えられていた。また、駐車スペースが広く設けられていた。こうした細やかな工夫が、患者や保護者にとって通いやすいクリニックとなる要因であると感じた。

午後には、受付業務や、事務作業の見学を行った。受付では、感染拡大を防ぐために症状に応じて待機室を分けるなど、臨機応変な対応が行われていた。また、事務作業では注射後に貼る絆創膏にイラストを描く作業も体験した。こうした小さな工夫が、子どもの緊張をほぐし、医療を身近なものにするのだと感じた。

今回の実習を通して、診療所の役割は病気を治すだけでなく、患者や家族の心に寄り添い、地域の人々が安心して生活できるように支えることであると学んだ。特に小児科は、子ども自身が症状を正確に伝えられないため、保護者との信頼関係やコミュニケーションが欠かせない。そのためには、医師やスタッフが患者や家族の声に耳を傾け、心理的に安全性の高い雰囲気を作ることが大切であると実感した。

この度はお忙しい中、実習の機会をいただき、誠にありがとうございました。あかりこどもクリニックで学んだ「寄り添う姿勢」「伝える工夫」「支え合う雰囲気」を、今後の学びや成長に活かしていきたいと思います。地域の中で信頼される医師を目指し、より一層努力を重ねていきたいと思っています。